



全国の人の「悔し涙」に励まされて

福島県は日本有数の桃の産地。全国に多くのファンを得ていました。

しかし、福島第一原子力発電所の事故の風評被害などにより需要は激減…。手塩にかけて育てた桃の出荷は途絶えてしまいました。

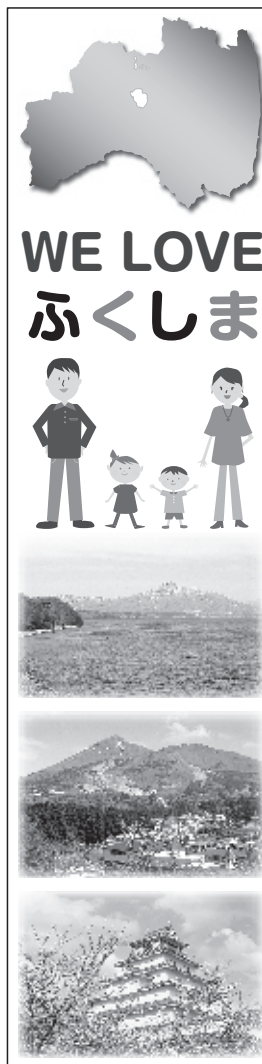
こうして多くの生産者が苦悩する日々が続くなか、一通のお手紙が果樹農家に届きました。そこには、「観光客が減り、果物も売れないと聞きました。私は何もできない悔しさに涙しています」とのメッセージが…。

「こんな状況でも応援してくれる人がある。自分たちだけでなく、全国の人も悔しく思っているんだ」と農家の人たちは励まされたとのこと。

ほどなくして、偶然にもこのエピソードをラジオで聴いた人たちが立ち上がりました。地酒の蔵元、デザイン会社、酒類販売会社、そしてJA新ふくしまの面々です。「ただ落胆するだけではダメ。懸命に応援してくれる人に、頑張るぞという意欲を伝えよう！」それぞれの熱い

「桃の涙」で踏み出した、新しい一歩。

「桃の涙」。一度聞いたら忘れられない名前です。飲んでみると、フルーティな香りと味わいが口いっぱい広がるとおいしいお酒です。「桃の涙」は、福島の特産品である桃と会津の地酒を使ったりキュール。販売を担う「JA新ふくしま」の総合企画部長・斎藤政治さんは「昨年の発売以来大好評で、風評被害に苦しむ農家の大きな励みになっています。」と静かに語ります。その言葉の裏には、様々な涙がいつぱい詰まった物語がありました。



「復興への思いが一つになって生まれました」と話すJA新ふくしまの総合企画部長・斎藤政治さん



◀「売れ行きも絶好調です」と、笑顔で話す農産物直売所こころ矢野目店チーフの渡部久美子さん

今年3月、発売1周年を祝うかのようにJA新ふくしまのもとへ嬉しいニュースが届きました。「桃の涙」が日本農業新聞主催の「2012一村逸品大賞」を受賞したのです。全国の農山村で行われている加工品や農作物から、特に優れた商品を表彰する同コンテストには全国から48点の応募があり、選考の結果、「桃の涙」が日本一に輝きました。「味だけでなくネーミングやデザインも良かった」との評。全員一丸となった結果の栄誉です。「全国的に評価されたことは、農家にとっても大きな励みになります」と斎藤さんも胸を張ります。

一方、「2年目のこれからが勝負。リピーターをいかに増やすかが鍵です」と口元をひきしめます。福島市内のバーで

味とネーミングが評価された「一村逸品大賞」

てくれました。

販路の開拓も成功の大きな要因です。福島県酒類卸が小売店やスーパーに卸し、JA新ふくしまが直売所等で販売、大和川酒造店がインターネットで全国に広めています。「我々JAの販売力だけでは限界があります。商品開発に携わったみなさんの気持ちが一体となった結果です」と熱く語ります。



▶「桃の涙」はスッキリとした味とともにスラリとしたボトルデザインが好評です。と、ご説明いただきました。（左）東北エネルギー懇談会(広報部) 備前

製造は喜多方市の蔵元、「大和川酒造店」が担当。難しかったのは「味わい」で、日本酒が好きな人にも苦手な人にも親しんでもらえるよう、桃の甘みと純米酒のkokoroのバランスに気を配ったとか。その結果、「これはおいしい!」と思わず声を上げてしまいそうな、さらりとした風味のお酒が完成しました。ネーミングはデザイン会社が担当。「涙」は本来、明るさが求められる食品には不向きです。それでもあえてこの字を使ったのは、福島県の風評被害の現状を伝えたい、心配してくれた人たちへ感謝の気持ちを伝えたい、そして「悔し涙」を「うれし涙」に変えたい、との強い思いがあったからです。

こうして2012年3月3日、「桃の涙」は発表されました。

以来、出荷本数は伸び続け、1年で3万本を超えるヒット商品に。その心地よい味わいが幅広い層に受け入れられたのです。同JA農産物直売所「こころ矢野目店」チーフの渡部久美子さんは「女性の方もたくさん買われます。ソーダ割などいろいろな飲み方を楽しんでいそうですね。」と笑顔で答え

3万本を超えるヒット商品に

思いが一つになって、「桃の涙」づくりはスタートしたのです。



「桃の涙」物語

果樹農家が手塩にかけて育てる福島の桃。芳醇な味と香りは、一度食べたら忘れられない・・・と、全国のファンに愛されてきました。そして2011年。

たわわに実った桃は、人々の手には届きませんでした。

そんな中、こんな手紙が果樹農家に届きました。「観光客が減り、果物もなかなか売れないと聞きました。私は何もできない悔しさに涙しています」と。

「私たち農家のために涙を流してくれてありがとう。気持ちをご代弁してくれてありがとう。」と果樹農家は返事を書きました。売れない桃を手に泣いていた果樹農家の心。その心を思う人が流した涙は、傷ついた心を潤しました。

「いろんなことがあるけど、がんばっていこう」果樹農家が新たに流した涙はあたたかく包まれていました。

応援してくださる人がいて踏み出せた新しい一歩。涙が綴った物語の中に、美味しい桃のリキュールが誕生しました。生食で味わえなかった福島の桃の果汁を福島の地酒とブレンド、さらりとした風味に仕上げて物語を届けます。

オリジナルのカクテルを作ってもらい、「桃の涙」の新たな魅力を楽しんでもらうキャンペーンを展開するなど、「うれし涙」を流すためのチャレンジに暇がありません。

厳しい検査体制で安全な農産物のみ出荷

さて、震災で「悔し涙」を流した福島県の農家も徐々に立ち直りを見せ、現在では、生産量・販売量ともに平年に近づきつつあります。しかし、未だに多くの農家が風評被害に悩まされていることも事実です。福島県では国内最高水準の検査体制で全品目検査を実施し、安全が確認された農産物のみを出荷しています。ただ、「安全は数値で証明できませんが、安心は個人の気持ちの問題」と斎藤さんが話すように、すべての人に受け入れられることの難しさを痛感させられることもしばしばあるとか。理解を得るには「検査結果を広く正確に公表していくこと。その積み重ねでしかない」と断言します。

今年の桃は例年にも増しておいしい実をつけることが期待されています。

『桃の涙』は、桃の生産農家だけでなく、福島の農家全体の復興を担うものと自負しています。そのためどんな努力も惜しみません」と斎藤さん。その言葉に、苦境にも負けない東北人の強さが感じられました。



▲ JA 新ふくしま農産物直売所では、放射性物質検査情報を表示している。農産物のすべてにおいて、品目別に放射性物質の検査を実施し、基準値を超えていないことを確認してから出荷しています。



JA新ふくしま 農産物直売所 ころら

ころら矢野目店：TEL 024-552-5881

福島市南矢野目字徳元田北10-1

ころら吾妻店：TEL 024-592-1088

福島市在庭坂字薬師田1-1

ころら大森店：TEL 024-544-1766

福島市大森字西ノ内71-1

ころら西店：TEL 024-593-1422

福島市上名倉字さくら3丁目1-6

ころら黒岩店：TEL 024-544-0860

福島市黒岩字北井14-1

ころら清水店：TEL 024-555-6641

福島市南沢又字前田7-3

ころら川俣店：TEL 090-9036-6085

伊達郡川俣町鶴沢字東13-1

【桃の涙】

500ml 1本 1,260円 化粧箱入
アルコール度数8%

■お問い合わせ

JA新ふくしま 直販課
福島市北矢野目字原田東1-1
TEL 024-553-3657
<http://www.shinfuku.jp/>



— ご購入はこちらからどうぞ —

JA新ふくしまショッピングサイト
<http://www.ja-cocora.com/index.shtml>

